

・商品開発・管理学会 セミナー参加報告

技術第3班 伊藤 眞子

1. 概要

商品開発・管理の研究は、現代社会の問題について商品を通じて解決しようという挑戦であり、社会科学や理工学、人文科学などの学際的なアプローチが求められる領域でもあります。当セミナーでは「AI・IOTを導入した医療・福祉に関する商品開発・管理」と題して、学術者及び民間企業と共にイノベーションを推進する包括的なプロフェッショナルのあり方について議論しました。

2. 日程など

日時: 令和元年6月22日(土)

会場: 神戸国際大学

・基調講演(12:50~13:50)

「マルチモーダルAIとみんなの認知症情報学が拓くヘルスケアの未来」竹林祥一(静岡大学 創造科学技術大学院 特任教授)

・特別講演Ⅰ(13:50~14:30)

「介護業務の標準化にICTがもたらすものは」青野桂子(青野桂子事務所 代表)

・特別講演Ⅱ(14:30~15:10)

「医療分野におけるICT・AIを用いた商品開発」辻 正次(神戸国際大学 経済学部 教授)

・インターミッション(15:10~15:30)

・研究報告①(15:30~15:50)

「イタリアにおける医療機器のデザイン・プロジェクト」小山太郎(中部大学 工学部 講師)

・研究報告②(15:50~16:10)

「ファッションにおけるユニバーサルの理想と現実」前野いずみ(名美アパレル株式会社 代表取締役)

・研究報告③(16:10~16:30)

「医療とITの最新動向とリハビリにVRを活用したプロジェクトの近況報告」土肥豊和(株式会社ワイドソフトデザイン 代表取締役)

・研究報告④(16:30~16:50)

「高齢化社会に向けて、鉄腕アトムのコミュニケーションロボットATOMのできること」

奈良原敦子(講談社第四事業局長 兼 ATOMプロジェクト統括マネージャー)

3. おわりに

近年問題となっている高齢化社会の進行は、医療・健康・福祉の環境をより充実した社会システムへ変更することを期待しています。それを受けて近年のAI・IOTの技術の進展はビッグデータの活用を可能にし、身近な生活を支援サポートするシステムが構築されつつあります。当セミナーに参加し、今後更に関心が高まると思われるAI・IOTを活用した商品開発・管理について多くの講演及び研究報告を拝聴しました。業務の一環として産学連携に携わることが多々あり、技術相談対応などで先方の希望に応えるためにAIやIOTを活用することは必須となっていると感じています。また、機能だけに捕らわれず見た目でも楽しませることで活用しやすくするなど、国によってデザインに対する考え方が大きく異なることなども知り実際の活用事例を見られたことなどは大変知見が広がりました。介護用品に留まらない研究報告結果や手法を学ばせて頂き、今後の業務に非常に役に立つものと考えています。

当セミナーに参加したことを活かし、産学連携事業や学生支援など、教育研究技術支援センター業務に一層励みたいと思います。